

大山崎 まるごと

ミュージアム

ガイド

京都・大山崎

京都・大山崎には、羽柴（豊臣）秀吉が明智光秀を討ち破った天下分け目の山崎合戦、その舞台となった「天王山」をはじめ、地域エリアには「アサヒビール大山崎山荘美術館」、「サントリー山崎蒸溜所」、千利休が唯一造営したと言われている「国宝・待庵（妙喜庵）」、油座の本所として栄えた「離宮八幡宮」、国重要文化財の閻魔大王などがある宝積寺（宝寺）、山崎の聖天さんとして、京阪神方面の方々や地元住民らに親しまれている「観音寺」（山崎聖天）、乙訓地方で最も古い神社の一つである「小倉神社」などの観光名所があり、季節を問わず、多くの観光客にお越しいただいています。

この他にも、大山崎には魅力的なスポットがたくさんあり、歴史・文化・自然に大変恵まれています。この『大山崎まるごとミュージアム・ガイド』は、あまり知られていない観光スポットや歴史・文化・自然、大山崎にまつわるエピソード、伝説等をご紹介します。

また、『大山崎まるごとミュージアム・ガイド』を編集・発行しております大山崎町商工会青年部・女性部では、“エコミュージアム”という考え方を取り入れて、これまで様々な事業に取り組んでまいりました。“エコミュージアム”とは地域内の資源を住民が見直し、それを大切にしようとする心、そしてその資源を結び付けて、まち全体を博物館として捉える考え方です。大山崎は小さい町でありながら、多くの魅力的な資源に恵まれています。まち全体を博物館として捉える考え方は、当町にピッタリだと感じています。

『大山崎まるごとミュージアム・ガイド』をご覧いただくことで、観光客の皆様には更なる大山崎の魅力を感じていただければ…と願っております。また、住民の皆様には、地域を見つめ直しいただく機会になれば幸いです…。

大山崎町の誕生

明治の市町村制によって、大山崎^{おんみやき}・円明寺村^{しんみやうの}・下植野村の3村が合併し、明治22年に大山崎村が誕生しました。そして、昭和42年に大山崎町となりました。大山崎町の町章は、天王山を中心に大山崎、円明寺、下植野の各地域が一体となっている姿を表しています。

大山崎はハートの形

大山崎町の人口は約15,000人です。面積はわずか5.97平方キロメートル、京都府内で一番面積の小さい町であり、人口密度の高い町でもあります。地図で見ると大山崎町はハートの形をしています。大山崎町は京都府長岡京市、京都府八幡市、京都市伏見区、大阪府三島郡島本町と隣接しています。

大山崎町の花鳥木…自然がいっぱいです

大山崎では、町の花として「桜」、町の鳥として「うぐいす」、町の木として秀吉の旗立松としても知られる「赤松」が花鳥木として制定されています。この他、花では絶滅の恐れのあるカリガネソウ、木ではケヤキやカシ、ヤマモモ、サカモ、鳥ではメジロ、ホウジロなども見ることができます。

大山崎は今も昔も交通の要衝です

大山崎は京都と大阪のほぼ中間に位置し、電車で京都から約15分、大阪から約30分の便利な環境にあります。昔から水陸の交通の要衝として栄え、小さな宿場町でもありました。天王山と淀川の間平地は100メートル弱と狭く、そこに東海道新幹線、JR東海道本線、阪急電鉄、国道171号、名神高速道路がほぼ平行して走っています。平成15年末には名神高速道路と京都第二外環状道路の“大山崎インタージャンクション”と側道の国道478号が完成しました。大山崎は今も昔も交通の要衝で、毎日多くの人がこの町を通過しています。

大山崎は通勤・通学の乗換えに便利です

大山崎にはJR山崎駅と阪急大山崎駅があります。この2つの駅の距離は、約250メートルと大変近い距離にあります。大山崎で乗り換える方も多くおられます。また、向こう岸の八幡市や久御山町などにお住まいの方が国道478号を使い、駅前付近の駐車場を借りて、通勤されるという利用方法もあります。

高速バスで全国各地へ

大山崎町体育館付近に「名神大山崎バス停」があります。このバス停からは、空港をはじめ全国各地と結ぶ便利な高速バスを利用できます。京都の高速バスのバス停は、「京都深草」にもあります。「名神大山崎バス停」の高速バスに関する情報は下記の大山崎町商工会ホームページをご覧ください。
<http://oyamazaki.kyoto-fsci.or.jp/henri6.html>

京都府と大阪府にまたがるJR山崎駅

JR山崎駅のプラットフォームは京都府と大阪府の2府にまたがる非常に珍しい駅です。大阪方面行きのホームに線路の枕木を使った表示があります。線路の下を流れる西谷川が昔から山城の国と摂津の国の国境になっていました。このことは、下記の大山崎ふるさとガイドの会ホームページで詳しく紹介されています。
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/ofg/ekiform.htm>

大山崎のシンボル『天王山』…山崎合戦の地

大山崎のシンボルは、標高270.4メートルの天王山です。地球のヘソと呼ばれるオーストラリアのエアーズ・ロックの高さ348メートルにはおよびませんが、その姿や形が天王山と似ているという人もおられます。天正10年（1582年）、本能寺の変で明智光秀に暗殺された織田信長の弔い合戦として、羽柴（豊臣）秀吉は中国大返しを敢行し、「天下分け目の天王山 山崎合戦」に勝利しました。この合戦に由来して、「天王山」という言葉は、“勝負を決する大事な場面や時”、“勝負の分岐点”を意味しています。プロ野球の首位攻防戦など、大事な試合では、「天王山」という言葉が使われます。秀吉は、光秀との天下分け目の天王山 山崎合戦を制し、天下人まで一気に駆け上りました。

天王山のカエル（柴田鳩翁「鳩翁道話」から）

昔、京都から大阪見物に来たカエルと大阪から京都見物に来たカエルが天王山で出会い、お互いに立ち上がり、めざす彼方を見渡すと自分の住んでいる所と少しも変わらない。カエルの目は背中に付いていて、立ち上がってみたら後ろが見えてしまったのだ。それに気づかなかったカエルたちは、これでは行っても無駄だといって、立ち去ったこと…。

天下分け目の天王山 山崎合戦の舞台を探求！

山崎合戦は秀吉軍約4万人、明智軍約1.6万人が激突し、わずか2時間程度で決着が付いたと言われています。秀吉は味方の士気を高めるため、天王山の老松に千成ひょうたんの旗印を掲げ、戦局に大きな影響を与えました。天王山の八合目付近にあるこの松は「旗立松」と呼ばれ、現在、その周りは展望台として整備されています。展望台には山崎合戦の布陣の地図が設置され、淀川の流れや京都盆地が一望できます。（旗立松は2006年1月時点で6代目です。）

また、天王山ハイキングコースには、大きな「秀吉の道」陶板サインが設置されています。秀吉の天下取り物語が、作家の堺屋太一さん、日本画家の岩井弘さんらによって計6枚のストーリーで描かれています。この他、「大山崎町歴史資料館」では、山崎合戦の様子がビジュアルで紹介され、一見の価値があります！

天王山の山頂にあった山崎城

天王山の山頂には中世以来たびたび城が築かれました。秀吉も山崎合戦に勝利したあと、急いで天王山に山崎城を築きました。山崎城は財寺城（おたけ ざいじょう）とも呼ばれているので、麓の宝寺（宝積寺）まで含めた大きな城だったようで、天守閣も備えていました。今は、井戸、空堀、石垣、虎口（出入口）等の跡が残っています。城は1年余りで壊れますが、この間、大山崎は城下町となり、千利休が屋敷を構えたりしました。山崎合戦の翌年から大阪城の築城がはじまり、秀吉も大阪に移りました。秀吉は山崎合戦から8年後に天下統一を果たし、天下統一から8年後、伏見城にて62歳の生涯を終えました。「山崎城」については、下記の大山崎ふるさとガイドの会ホームページで紹介されています。
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/ofg/sanchou.htm>

鉄道マニアにも最高のスポットです

大山崎にはたくさんの鉄道が走っています。阪急大山崎駅はホーム（梅田行き）の真横に東海道新幹線が走っています。色々なアングルから鉄道の撮影が楽しめます。